

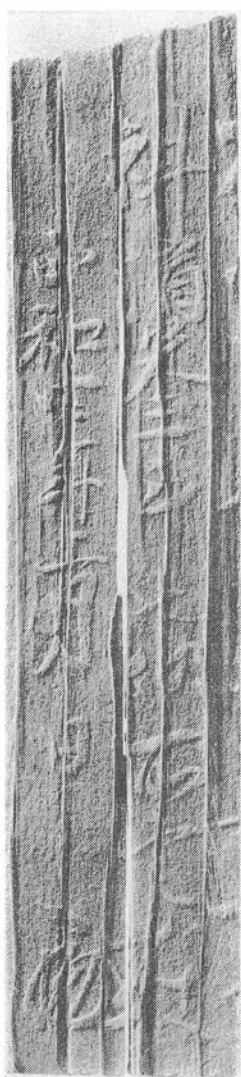
大阪・大庭北遺跡

- 1 所在地 大阪府守口市金田町
- 2 調査期間 一九八三年(昭58)十一月～一九八四年二月
- 3 発掘機関 大阪府教育委員会
- 4 調査担当者 西口陽一
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 古墳時代後期・平安時代後期～鎌倉時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(大阪東南部)

大庭北遺跡は、守口市の市街地から北東へ約3km、標高3mの沖積地上に位置している。今回の調査は、府営住宅建て替えに先立つもので、試掘の結果、遺跡の存在が新たに知られたた



め、急遽、発掘に至ったものである。
木簡が出土した遺構は、調査区の北東部で検出された東西溝中で、木簡は、埋土内部と埋土上面から、二片に分れて出土した。瓦器碗や土師皿が伴出しており、鎌倉時代末期に比定できる。
遺跡の性格としては、平安・鎌倉時代の井戸や土器群・溝・里道等が検出されたので、ごく近辺に集落の存在が考えられ、中世の勝尾寺文書等で有名な「大庭荘」の一角である可能性が高い。

8 木簡の积文・内容

(1) ・「可為□□□□人□□也」

221×(48)×4 081

・「□□□□□□□□□□
料備米三斗也仍所定如件
正和四年二月 日 (花押)」

墨はとんでおり、高く残った墨書痕跡により判読した。

(西口陽一)